学生の大学教育に対する期待

中　島　直　忠　（九州大学）
池　田　輝　政　（九州大学）
松　永　裕　二　（九州大学）

Abstract

The Expected College Education through a Survey of Student Consciousness.

Naotada NAKAJIMA, Kyushu University
Terumasa IKEDA , Kyushu University
Yuji MATSUNAGA , Kyushu University

In an age of increasing popular function in higher education, we insist on studying the value of higher education, above all, educational value added for students.

We, in 1979, undertook a survey of student consciousness.

The respondents are 2409 students attending 10 four-year colleges and universities.

This paper presents the results of a survey concerning skills and traits that can be attained during college years.

The framework of these skills and traits consists of three categories, a) cognitive learning,

b) emotional and moral development, c) practical competence by reference to a catalogue of educational goals, contained in the book "Investment in Learning" by Howard R. Bowen.

The findings are as follows:

1. According to frequency tables, especially, about characteristics as seen in common among most of respondents:
   (1) Students, during the college years, desire the attainment of their own national language skills and substantive knowledge in a selected field (a), understanding and thoughfulness in human relationships (b), and leadership, especially, willingness to assume responsibilities (c).
   (2) College education contributes toward national language skills, especially, the ability to comprehend through reading (a), understanding and thoughfulness in human relationships (b), and leadership, especially, willingness to assume responsibilities (c).
2. According to factor analysis:
   (1) Skills and traits which are thought important to be acquired by students, that is, students' goals in college life, are structured by the following 4 factors, A) practical competence, B) general culture, C) interpersonal relationships, and D) foreign language skills.
   (2) Skills and traits which are thought to have been aquired by students through college education are also structured by the following 4 factors corresponding to the former, A) sound family life and economic productivity, B) cultural knowledge, C) interpersonal relationships, and D) foreign language skills.

I　調査の趣旨と概要

1. 調査の趣旨

高等教育の大衆化状況は，その目的・性格・社会的役割・教育内容・教育方法・経費・財政などに及んでおり，その質への科学的接近の深化が要請されている。とくに高等教育機関の個別的な目的・性格・社会的役割に着目し，学生の自己確認や人生設計との関連における学園生活の有意義さが，いかなる状況に置かれているのか，その実態について研究を掘り下げる必要がある。このほかの点も含め，日米両国について比較研究を試みるため，われわれを含む共同研究グループは，「大衆化時代における高等教育の政策と制度」との研究課題で，昭和53年度以降3年間，科学研究費補助金による研究を進めている。

本論文は，その一環として昭和53年度に実施した国内の4年制大学10校の学生を対象とするアンケート調査のうち，大学教育の目標としてふさわしい資質・能力に関する部分について，その回答内容を考察し，大学教育の現状がはらむ問題点を明らかにしようとするものである。

2. 調査対象と調査方法

全国の国立・公団立・私立大学のうちから，設置者別・専門別・男女別・規模別・入学難易別等において多様な学生集団を考察対象にできるよう，目的・性格のさまざまな10校の4年制大学を選んだ。各校から，原則として，下学年（1年生）集団と上学年（主として3年生としたが4年生の混入した場合もある）集団を調査することとした。

また，調査を実施可能にする配慮から，「教育原理」・「教育学」または「倫理学関係」の授業の受講者集団を調査対象とした。その結果，回答結果は，各大学においてこれら諸科目を履習している学生集団を代表するものであって，厳密には各大学の全学生集団を代表するものではない。しかし，最近の学生の意識と実態を一般的にうかがう上で，その傾向を探査するための仮設としては有効性があると考えられよう。

調査対象者の統計は図表1のとおり，回収率85％有効回答数合計2409票である。また，対象大学の諸属性の概略をイメージ・アップしていただくため，そのプロフィールを図表2に示しておく。

＜図表１＞　学生アンケート調査対象者

大学	学年	サンプル数 配布対象者	サンプル数 配布数	回収数	有効数
A大学	下学年（1年）	「教育原理」受講者	137	137	97
	上学年（3年）	〃	50	50	50
B大学	上学年（3，4年）	「教育原理」受講者	373	373	369
C大学	下学年（1年）	「教育原理」受講者	183	183	102
	上学年（3，4年）	〃	200	200	199
D大学	下学年（1年）	「教育原理」受講者	183	106	99
	上学年（3年）	〃	176	106	106
E大学	下学年（1年）	「倫理学関係」受講者	98	87	86
	上学年（3年）	〃	73	65	60
F大学	下学年（1年）	「教育学」受講者	60	60	60
	上学年（3，4年）	〃	101	101	101
G大学	下学年（1年）	「教育原理」受講者	77	77	77
	上学年（3年）	〃	57	57	57
H大学	下学年（1年）	「教育学」受講者	356	315	310
	上学年（3，4年）	「教育原理」受講者	335	278	275
I大学	下学年（1年）	「教育原理」受講者	112	112	111
	上学年（3，4年）	〃	139	139	139
J大学	下学年（1年）	「教育学」受講者	50	50	50
	上学年（3，4年）	「教育原理」受講者	62	62	61
合計	下学年		1256	1127	992
	上学年		1566	1431	1417
	計		2822	2558	2409
			(100%)	(91%)	(85%)

この機会に，調査に御協力を賜わった各大学関係各位に深く感謝の意を表するものである。

＜図表２＞　対象大学のプロフィール

	A 大学	B 大学	C 大学	D 大学	E 大学	F 大学	G 大学	H 大学	I 大学	J 大学
設置関係	私立	私立	私立	公団立	私立	私立	国立	国立	私立	国立
学部構成	体育	法・商・政経・経営・文・工・農	文・家政	機械・金属・建築・電気・化学の５系	外国語	法経	教育	理・工・農・文・教育・法・経・医・歯・薬	家政	農・工・教育
規模	小規模	マンモス大	中規模	小規模	小規模	中規模	中規模	大規模	小規模	中規模
共学・別学	共学（男子90%）	共学	女子大	男子100％	共学	共学	共学	共学	共学（女子98%）	共学
入学難易度	最易	やや難	やや易	やや易	やや易	最易	やや難	最困難	やや易	やや難
沿革	S.42:大学	前身:旧制大学 S.24:大学 S.28:経営	前身:女専 S.24:大学 S.40:文・家政	S.36:開設	前身:外事専 S.25:短大 S.34:大学	前身:専 S.25:大学	前身:師範青師 S.24:大学	前身:旧制大学 S.24:大学 S.26:教育 S.39:薬 S.42:歯	前身:各種 S.32:短大 S.40:大学	前身:高農工専師範青師 S.24:大学
学風・特色	教職員との接触が密 学生はのんびりタイプ	一世紀にわたる校風は自由と進取の気質 庶民的ふん囲気 学生は律気で真面目 大学院をもつ	70年余の歴史をもつ堅実・温和な学風 大学院をもつ	職業教育の教師養成を目的 個別教育への留意 学生は職業・実生活に関心の強い堅実タイプ	徳育教育の重視 国際感覚の育成 生きた外国語教育 全寮制度(少数個別教育)	二部を設置して勤労者教育に貢献 生きた法学教育 スポーツ盛ん	のびのびした学生生活	学問研究分野での貢献大 学生の出身地は九州全県にわたる 大学院をもつ	栄養学に特色ある伝統をもつ 女性の特性を生かした専門教育	のんびりした学生生活 サークル活動盛ん

3. 調査内容

われわれは，まず，大学教育の目標としてふさわしいと考えられる資質・能力を，42項目列挙した。その内容は図表３の「資質・能力項目」欄に掲げるＱ７－Ｑ48である。これらの資質・能力のそれぞれについて次の設問を設けた。

次の７から48までの項目ごとに,在学中の大学について，あなた自身が重要と考える程度と到達の程度を答えてください。

右の要領でＡ，Ｂのそれぞれの欄に，１つの回答を選んでチェックしてください。

Ａ　あなたが重要と考える程度

(1)重要でない　(2)重要である　(3)必要不可欠

Ｂ　あなたがこれまでに身につけた程度

(1)身についてない　(2)ある程度　(3)充分に

すなわち，Ａにより重要度の意識を通じて期待ないし目標について調べ，Ｂにより修得度の意識を通じて修得状況について調べ，また，Ａ・Ｂの相互関連により学生の抱く目標の達成度について調べることとしたのである。

＜図表３＞　大学教育に期待されるもの（資質・能力の一覧）

資質・能力カテゴリー	資質・能力サブカテゴリー	資質・能力項目
a 知的学習	(1) 日本語能力	Q7. 日本語文献を読んで理解する能力を養う（読む力）
		8. 論文・レポートをはっきりわかるように書く能力を養う(書く力)
		9. 自分の考えを筋道をたてて話す能力を養う（話す力）
	(2) 外国語能力	10. 外国語文献を読んで理解する能力を養う（読む力）
		11. 外国語を正しく聞きとる能力を養う（聞く力）
		12. 外国語で自分の考えを筋道をたてて話す能力を養う（話す力）
	(3) 数理能力	13. 数学の基礎概念を理解する能力を養う（数学）
		14. 統計上の単純なデータを理解し，処理する能力を養う（統計）
	(4) 知識・教養	15. 伝統的な西洋文化・東洋文化についての基礎的理解をもつ
		16. 現代の人文・社会・自然の諸科学，芸術などについての基礎的理解をもつ
		17. 専攻領域に関する基礎知識を充分にもつ
	(5) 合理的思考力	18. 事実を独断や感情をまじえず，客観的にみる力を養う
	(6) 知的寛容	19. 既成の権威にとらわれず，自由に物事を考える力を養う
		20. 複雑でめんどうな問題に恐れず取り組む探求心を養う
		21. 物事には民族や文化により様々な見方・考え方があることを認める態度を養う
	(7) 美的センス	22. 文学・美術・自然の美しさに関する知識・関心・鑑賞能力を高める
	(8) 創造性	23. 新しい仮説やアイデアを作り出し，または芸術作品を創作する創造力や独創性を養う
	(9) 継続的学習意欲	24. 在学中に学習の仕方を学んでおく

資質・能力カテゴリー	資質・能力サブカテゴリー	資質・能力項目
b 情緒と道徳の発達	(10) 自己発見	25. 自分の能力・志望・価値観を知る
		26. 自分がかけがえのない人間であることを自覚する
	(11) 心理的健全さ	27. 適切な自己主張・自信・自発性を養う
	(12) 人間理解	28. 他人に対する共感や思いやり・協調性を養う
	(13) 価値観とモラル	29. 社会に対する関心と責任感を身につける
	(14) 宗教的関心	30. 宗教的なものについて真面目に探求する姿勢を養う
	(15) 趣味・行儀作法の洗練	31. 洗練された趣味や礼儀作法を身につける
c 実生活上の能力	(16) 達成欲求	32. ものごとをりっぱにやりとげようとする意欲を養う
	(17) 未来志向	33. 事前に慎重に準備し計画する能力を養う
		34. 将来に対する冷静で客観的な見方を身につける
	(18) 適応性	35. 困難や危機をうまく処理していく能力を養う
		36. 人とよく相談してものごとを進める能力を養う
	(19) リーダーシップ	37. 責任をもって物事を処理する姿勢・態度を身につける(処理能力)
		38. 組織をつくり，組織を動かしていく力を養う (組織力)
	(20) 市民性	39. 政治のしくみや政党の政策・主張を正しく理解する能力を養う
		40. 政治・経済・教育・福祉などに関する諸団体に，積極的に参加していこうとする態度を養う
	(21) 経済的生産性	41. 希望職種に関する知識・技能を身につける
		42. 新しい仕事や職場に適応する能力を養う
	(22) 健全な家庭生活	43. 安定した家庭をつくりあげる能力を身につける
		44. 子どもを育てるための知識や能力を身につける
	(23) 消費者としての能力	45. じょうずな消費生活を送る方法を身につける
	(24) 充実した余暇	46. 仕事やレジャーその他の活動に，時間をうまく配分する力を身につける
		47. 卒業後も余暇の時間を利用して，ずっと勉強・学習していく態度や能力を身につける
	(25) 健康	48. 心身の健康を維持・向上するための知識を修得する

設問に「在学中の大学について」の一句を入れたのは，教師の授業・指導によるのみでなく，広く学風・伝統・教師・友人等の影響力によって身についた資質・能力や，課外活動，図書館等の施設利用など大学が提供するあらゆる教育の機会を通じて身につけた資質・能力をも回答してもらう趣旨からである。従って以下において「大学教育の貢献」と言うとき，それは上述の広い意味におけるものである。他方，在学期間中ではあるが，家庭や地域社会など大学以外の場で身につけうる資質・能力については，回答においてこれを考慮に入れないという趣旨をも含む。

さて，42の資質・能力項目の設定に当っては，ハワード・R・ボーエンが提示した大学教育目標の枠組[1]を，次の3点の理由で参考にした。 (1) 日・米両国の学生にとっての大学教育目標の重要度とその修得状況を，数量的に比較可能にすること。 (2) 彼の枠組のデータ・ソースは

過去及び現代における著名な教育哲学者の著作物，機関・団体の報告書及び勧告，教育指導者の演説，その他諸々の論文など多岐にわたり，最も体系的かつ緻密であること。 (3) 米国の大学教育を素材として把握された枠組を，文化の異なる日本の学生に適用することの妥当性には若干の問題も感じられるが，戦後改革及び最近の大衆化の結果，両国の大学教育にはかなりの類似性が一般に認められるので，設問として使用するにはかなり有効性があると判断したこと。

42の資質・能力項目を，ボーエンの枠組を参考にして概括すると，図表3に示すとおり，(a)知的学習，(b)情緒と道徳の発達，(c)実生活上の能力の3カテゴリーに大別され，さらにそれらは合計25のサブ・カテゴリーに分類される。このカテゴリーとサブ・カテゴリーは調査票には示していない。

なお，この学生アンケートの調査票には，フェース・シートや大学生活についての9項目の設問（学業成績など）も含むが，本論文では，主として上記の資質・能力についての設問に対する回答を集計処理して考察を報告する。

（中島）

Ⅱ　学生の期待と大学教育の貢献
―― 単純集計結果から ――

高等教育の究極の目的は人間個々人がもつ資質・能力の全面的発達であると考えられる。われわれの調査では，高等教育段階で修得可能な資質・能力を内容とするあるべき教育目標を作成した。本発表部分では，それら42の資質・能力項目についての学生（ただし上学年生のみが対象）の反応を単純集計した結果から，学生の期待と大学教育の貢献について考察する。

1. 学生の期待

42の資質・能力項目ごとに「在学中の大学について，学生個人が重要と考える程度」を「必要不可欠」，「重要である」，「重要でない」のいずれかに回答を要求した。その学生の反応を大学教育に対する学生の期待として整理・作成したのが図表4の大学別度数分布である。さらに「必要不可欠」への回答者あるいは「重要でない」への回答者が約40％を超えた項目（表中○印）に着目して，それら項目を当該大学における学生の期待を特徴づけるものとみなした。その特徴とする項目だけを取り出して大学別一覧を作成した結果が図表5である。「必要不可欠」への回答者が40％を超えた項目を学生の「期待するもの」，逆に「重要でない」への回答者が40％を超えた項目を学生の「期待しないもの」，としている。以下，図表5によって各大学別の学生の期待をみることにする。

＜図表４＞　大学教育に対する学生の期待

項目 / 番号	A 大		B 大		C 大		D 大		E 大	
	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない
Q 7	26.0	0.0	○45.8	5.4	○46.2	3.0	37.7	8.5	35.0	3.3
8	36.0	0.0	○48.2	2.4	○43.2	0.0	○40.6	2.8	26.7	3.3
9	34.0	4.0	○59.6	3.0	○48.7	0.5	○59.4	2.8	○48.3	3.3
10	14.0	22.0	17.6	11.9	10.6	17.1	21.7	4.7	○41.7	6.7
11	16.0	24.0	17.1	21.1	10.6	17.6	17.0	11.3	○46.7	3.3
12	10.0	○42.0	12.5	35.5	7.5	○41.7	9.4	29.2	○45.0	6.7
13	10.0	○40.0	9.8	33.3	9.0	31.7	34.9	3.8	6.7	○51.7
14	22.0	6.0	12.7	20.6	10.1	24.1	25.5	12.3	16.7	28.3
15	6.0	24.0	19.5	11.7	14.6	7.5	10.4	30.2	20.0	5.0
16	12.0	8.0	28.7	5.1	19.6	5.0	17.0	13.2	20.0	11.7
17	○68.0	2.0	○58.3	2.7	○61.3	3.0	○66.0	0.0	○75.0	0.0
18	26.0	0.0	○45.5	3.8	○40.2	3.0	31.1	4.7	○50.0	3.3
19	28.0	6.0	○46.9	1.4	37.7	3.5	○43.4	2.8	45.0	5.0
20	18.0	16.0	35.5	7.0	29.6	4.5	34.9	3.8	35.0	3.3
21	14.0	14.0	31.7	7.3	24.6	7.0	19.8	13.2	31.7	8.3
22	20.0	14.0	21.7	14.1	25.6	9.0	8.5	25.5	13.3	13.3
23	16.0	20.0	17.9	19.8	16.6	18.1	29.2	14.2	8.3	16.7
24	○42.0	12.0	30.1	24.1	28.1	20.6	27.4	26.4	○41.7	18.3
25	38.0	4.0	○47.7	8.1	○46.7	1.5	34.9	5.7	○48.3	6.7
26	22.0	10.0	33.6	15.7	32.2	11.6	18.9	20.8	26.7	16.7
27	○42.0	0.0	○43.4	5.4	○45.2	4.0	34.0	5.7	38.3	3.3
28	○46.0	4.0	○51.2	4.9	○44.7	7.5	○41.5	9.4	○60.0	6.7
29	○44.0	0.0	○51.8	3.8	○44.2	0.5	○42.5	7.5	○53.3	3.3
30	8.0	○74.0	6.0	○61.0	7.0	○58.3	10.4	○64.2	10.0	○40.0
31	20.0	18.0	10.8	38.5	14.6	33.7	12.3	38.7	21.7	25.0
32	36.0	4.0	30.6	10.0	25.1	8.5	31.1	12.3	28.3	6.7
33	34.0	6.0	22.8	7.0	22.1	7.5	30.2	6.6	30.0	1.7
34	○42.0	10.0	33.3	8.7	39.2	4.5	30.2	2.8	31.7	1.7
35	36.0	6.0	26.3	13.0	28.6	9.5	26.4	8.5	35.0	6.7
36	22.0	12.0	20.3	13.0	20.6	16.6	21.7	14.2	26.7	8.3
37	○46.0	2.0	○48.8	6.0	○42.2	1.5	○43.4	6.6	○48.3	1.7
38	22.0	32.0	14.4	26.3	11.6	36.2	16.0	31.1	23.3	21.7
39	12.0	20.0	22.0	15.2	16.6	15.6	18.9	33,0	15.0	15.0
40	12.0	22.0	11.4	38.8	11.1	37.7	12.3	45.3	8.3	26.7
41	○56.0	0.0	32.5	15.4	37.2	7.0	○47.2	2.8	○40.0	1.7
42	18.0	12.0	15.2	23.8	24.1	21.6	17.9	15.1	18.3	15.0
43	14.0	22.0	17.6	○40.1	21.1	33.7	14.2	35.8	28.3	31.7
44	18.0	26.0	20.6	37.1	19.1	30.2	20.8	○46.2	18.3	36.7
45	14.0	34.0	9.2	○46.6	15.1	31.2	6.6	○45.3	10.0	○40.0
46	22.0	14.0	12.2	35.2	14.6	29.6	20.8	24.5	16.7	25.0
47	26.0	12.0	32.5	14.6	27.1	14.6	28.3	20.8	16.7	11.7
48	○54.0	0.0	32.0	15.2	30.7	8.0	29.2	13.2	28.3	18.3
	N=50		N=369		N=199		N=106		N=60	

（大学別度数分布）

（注）○印は約40％以上の項目
100％＝「必要不可欠」＋「重要である」＋「重要でない」＋N.R.

F 大		G 大		H 大		I 大		J 大	
必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない	必要不可欠	重要でない
26.7	7.9	29.8	3.5	○54.9	2.9	27.3	3.6	○67,2	1.6
32.7	2.0	○47.4	1.8	○51.3	2.2	35.3	1.4	○57.4	0.0
○39.6	4.0	○52.6	0.0	○64.0	2.2	38.8	2.2	○63.9	0.0
10.9	28.7	14.0	24.6	31.6	4.4	5.8	9.4	11.5	9.8
13.9	23.8	10.5	31.6	24.7	11.6	7.2	16.5	3.3	○41.0
7.9	○52.5	5.3	○56.1	14.9	28.0	8.6	○44.6	3.3	○68.9
11.9	26.7	22.8	10.5	22.9	19.3	12.9	18.0	21.3	11.5
17.8	22.8	19.3	21.1	22.5	15.3	28.8	5.8	24.6	4.9
14.9	25.7	17.5	10.5	20.0	11.6	12.2	10.1	13.1	14.8
17.8	13.9	24.6	5.3	25.1	6.9	14.4	3.6	27.9	8.2
34.7	7.9	○56.1	3.5	○70.5	2.2	○56.1	0.7	○73.8	0.0
26.7	6.9	○42.1	3.5	○49.8	4.4	31.7	2.2	○49.2	3.3
30.7	5.0	35.1	8.8	○53.8	2.5	27.3	4.3	○45.9	1.6
21.8	7.9	22.8	7.0	36.4	5.1	22.3	5.8	31.1	4.9
21.8	14.9	19.3	17.5	34.5	8.0	20.1	12.2	16.4	21.3
20.8	19.8	28.1	21.1	21.5	18.9	18.0	7.9	31.1	11.5
24.8	22.8	19.3	14.0	22.5	16.7	20.9	13.7	26.2	24.6
15.8	22.8	28.1	22.8	31.6	18.2	26.6	15.8	24.6	29.5
31.7	6.9	33.3	7.0	○46.5	5.5	38.8	1.4	34.4	4.9
23.8	24.8	22.8	28.1	29.8	20.4	22.3	12.9	39.3	24.6
28.7	5.0	36.8	10.5	○40.4	5.8	30.9	3.6	○52.5	9.8
35.6	5.9	○49.1	14.0	○49.5	9.8	○39.6	4.3	○44.3	14.8
38.6	3.0	38.6	7.0	○45.1	5.5	35.3	2.2	○49.2	4.9
11.9	○62.4	12.3	○63.2	5.8	○56.0	14.4	○57.6	3.3	○80.3
18.8	26.7	10.5	○43.9	8.4	○48.0	22.3	28.8	4.9	○59.0
26.7	5.9	21.1	15.8	25.8	10.9	27.3	8.6	27.9	21.3
22.8	8.9	15.8	28.1	24.0	7.3	23.7	5.0	24.6	13.1
22.8	3.0	19.3	14.0	28.4	6.2	26.6	5.8	31.1	8.2
26.7	6.9	28.1	22.8	33.5	7.6	27.3	10.1	29.5	26.2
13.9	9.9	17.5	22.8	19.3	13.8	18.0	12.9	14.8	24.6
31.7	2.0	○50.9	5.3	○41.5	6.2	32.4	5.0	○49.2	11.5
17.8	29.7	15.8	36.8	10.2	34.5	12.2	33.8	6.6	○49.2
26.7	20.8	12.3	19.3	17.1	14.5	15.8	25.2	19.7	16.4
17.8	37.6	10.5	33.3	6.9	39.3	11.5	28.1	8.2	37.7
31.7	5.9	36.8	5.3	34.2	12.4	○47.5	0.0	○52.5	3.3
19.8	14.9	19.3	21.1	20.7	18.9	18.7	9.4	14.8	31.1
19.8	19.8	26.3	29.8	21.1	29.5	25.9	25.2	13.1	○42.6
26.7	23.8	24.6	36.8	23.3	31.6	32.4	12.9	19.7	32.8
10.9	24.8	12.3	○40.4	8.7	39.3	15.8	22.3	8.2	○45.9
14.9	21.8	8.8	36.8	14.5	33.1	18.0	26.6	9.8	○52.5
15.8	23.8	28.1	17.5	31.6	10.5	20.9	10.8	37.7	6.6
21.8	13.9	26.3	8.8	31.3	12.0	28.1	12.9	27.9	19.7
N＝101		N＝57		N＝275		N＝139		N＝61	

＜図表５＞　大学教育に対する学生の期待　　（大学別特徴）

	期待する（「必要不可欠」反応者40％以上）	
	a．知　的　学　習	b．情緒と道徳の発達
A　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　継続的学習意欲	(1)　心理的健全さ (2)　人間理解 (3)　価値観とモラル
B　大	(1)　日本語能力 (2)　専攻領域に関する基礎知識 (3)　知的寛容 (4)　合理的思考力	(1)　価値観とモラル (2)　人間理解 (3)　心理的健全さ (4)　自己発見
C　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　日本語能力 (3)　合理的思考力	(1)　自己発見 (2)　心理的健全さ (3)　人間理解 (4)　価値観とモラル
D　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　日本語能力（書く力・話す力） (3)　知的寛容	(1)　人間理解 (2)　価値観とモラル
E　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　外国語能力 (3)　合理的思考力　　(4)　日本語能力（話す力） (5)　継続的学習意欲	(1)　人間理解 (2)　価値観とモラル
F　大	(1)　日本語能力（話す力）	
G　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　日本語能力（書く力・話す力） (3)　合理的思考力	(1)　人間理解
H　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　日本語能力 (3)　合理的思考力 (4)　知的寛容	(1)　人間理解 (2)　自己発見 (3)　価値観とモラル (4)　心理的健全さ
I　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識	(1)　人間理解
J　大	(1)　専攻領域に関する基礎知識 (2)　日本語能力 (3)　合理的思考力 (4)　知的寛容	(1)　心理的健全さ (2)　人間理解 (3)　価値観とモラル

	期待しない（「重要でない」反応者40％以上）		
c．実生活上の能力	a．知　的　学　習	b．情緒と道徳の発達	c．実生活上の能力
(1) 希望職種の知識・技能 (2) 健康 (3) リーダーシップ（処理能力） (4) 未来志向	(1) 外国語能力（話す力） (2) 数理能力（数学）	(1) 宗教的関心	
(1) リーダーシップ（処理能力）		(1) 宗教的関心	(1) 消費者としての能力 (2) 健全な家庭生活
(1) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力（話す力）	(1) 宗教的関心	
(1) 希望職種の知識・技能 (2) リーダーシップ（処理能力）		(1) 宗教的関心	(1) 健全な家庭生活 (2) 消費者としての能力
(1) リーダーシップ（処理能力） (2) 希望職種の知識・技能	(1) 数理能力（数学）	(1) 宗教的関心	(1) 消費者としての能力
	(1) 外国語能力（話す力）	(1) 宗教的関心	
(1) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力（話す力）	(1) 宗教的関心 (2) 趣味・礼儀作法の洗練	(1) 消費者としての能力
(1) リーダーシップ（処理能力）		(1) 宗教的関心 (2) 趣味・礼儀作法の洗練	
(1) 希望職種の知識・技能	(1) 外国語能力（話す力）	(1) 宗教的関心	
(1) 希望職種の知識・技能 (2) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力（聞く力・話す力）	(1) 宗教的関心 (2) 趣味・礼儀作法の洗練	(1) リーダーシップ（組織力） (2) 余暇利用能力 (3) 消費者としての能力

a．知的学習　：　まず10大学にほぼ共通する期待は専攻領域に関する基礎知識（Q 17）の修得である。その他にも日本語能力（Q 7，8，9）が挙げられる。ただし日本語能力の場合，読む力（Q 7）・書く力（Q 8）・話す力（Q 9）の全ての能力を各大学が一様に期待しているわけではない。職業教育指導者養成校のD大や教員養成校のG大では書く力および話す力を期待し，外国語単科大学のE大や法経一学部のF大ではとくに話す力を期待する。

つぎにグループ別に特徴をみると，私立有名校のB大や私立女子大のC大，全寮制の外国語単科大学のE大，国立のG大・H大・J大と，10大学中入学が最も容易なA大・D大・F大・I大を除いたグループで，合理的思考力（Q 18）への期待がみられる。また，とくに入学が難しいB大・H大・J大では，知的寛容（Q 19のリベラルなものの見方・考え方）の修得にも期待がみられる。

個別大学の特徴では，A大およびE大に継続的学習意欲（Q 24）への期待がみられる。なおE大での外国語能力（Q 10，11，12）の期待は外国語単科大学の性格から推しても納得がいく。

他方，期待しないものをみると，外国語能力（Q 11，12）と数学の能力（Q 13）が挙がっているが，話す力の面での外国語能力はB大・D大・E大・H大を除く6校全てに及んでいる。

b．情緒と道徳の発達　：　10大学にほぼ共通する期待は人間理解（Q 28）である。価値観とモラル（Q 29）もF大・G大・I大を除く7校と，多くの大学でその修得を期待している。

グループ単位でみると，A大・J大では心理的健全さ（Q 27）にも期待がみられ，さらにこれに加えてB大・C大・H大では自己発見（Q 25の自己確認）への期待がある。やはり，心理的健全さや自己発見への期待は入学水準の高い大学の学生により多くみられると言えよう。

他方，期待しないものには10大学全てに共通して，宗教的関心（Q 30）がある。これは日本の大学の学生にみられる支配的特徴と言えるかも知れない。なお興味あるのは，G大・H大・J大の国立校だけが一致して，趣味・礼儀作法の洗練（Q 31）を期待してない。

c．実生活上の能力　：　10大学にほぼ共通する期待がリーダーシップ（Q37の処理能力）である。

グループ単位でみると，A大・D大・E大・I大そしてJ大の5校で希望職種の知識・技能（Q 41）への期待がみられる。国立校のJ大（対象学生は教育学部の学生）を除く4大学は入学が最も容易かあるいはそれに近いグループである。つまり，希望職種の知識・技能の修得という実用的な期待をもつのは，むしろ入学水準がそれ程高くない大学の学生に多くみられると考えられる。

個別大学ではA大で，未来志向（Q 37の計画能力）や健康（Q 48）といったユニークな期待がみられる。とくに健康への期待は体育単科大学というA大の性格と合致している。

他方，期待しないものには，消費者としての能力（Q 45）や健全な家庭生活（Q 43，44）などがみられる。

以上，学生の大学教育に対する期待をみてきた。学生の期待は，われわれの予想を超えて多様であり，知的学習の面ばかりか情緒と道徳の発達の面にも，さらには実生活上の能力の面にも及んでいる。そして個別大学によってその期待の内容と程度が異なるけれども，入学が容易な大学とそうでない大学との間でグループ別の特徴の相違がみられたのは興味ある現象であった。

2.　大学教育の貢献

学生の期待をみるために利用した同じ42の資質・能力項目に対し，「在学中の大学について，

学生個人がこれまでに身につけた程度」を「充分身につけた」，「ある程度身につけた」，「身についてない」のいずれかに回答を要求した。その学生の反応を基にして，大学教育が学生のいかなる資質・能力の修得に貢献しているかをみるために整理・作成したのが図表６の大学別度数分布である。さらに「身についた」（「充分身についた」と「ある程度身についた」）への回答者が80％以上の項目（表中○印），および「身についてない」への回答者が60％以上の項目（表中●印）に着目して，それら項目を当該大学の教育の貢献したもの，および貢献してないものとして特徴づけた。その特徴とする項目の内容を大学別の一覧にしたのが図表７である。「身についた」への回答者が80％以上になる項目を大学教育の「貢献したもの」，逆に「身についてない」への回答者が60％以上になる項目を大学教育の「貢献してないもの」，としている。以下，図表７によって各大学別の大学教育の貢献をみていく。

＜図表６＞　大学教育の貢献　　（大学別度数分布）

項目 / 番号	A　大		B　大		C　大		D　大		E　大	
	身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない
Q 7	○86.0	14.0	○83.2	16.5	○81.3	18.6	○80.2	18.9	76.7	23.3
8	○82.0	18.0	62.3	37.7	61.8	37.7	65.1	34.9	58.3	41.7
9	76.0	24.0	72.6	27.4	65.8	32.2	64.1	34.9	66.7	33.3
10	22.0	•78.0	42.0	58.0	18.1	•80.9	30.2	•69.8	68.4	30.0
11	12.0	•88.0	21.2	•78.6	15.3	•84.7	12.3	•87.7	61.7	36.7
12	8.0	•92.0	10.8	•88.9	4.1	•94.5	6.6	•93.4	40.0	•60.0
13	60.0	40.0	48.2	51.5	41.7	56.8	71.7	28.3	25.0	•75.0
14	76.0	24.0	53.1	46.3	43.7	54.3	60.4	39.6	26.7	•73.3
15	52.0	48.0	66.7	32.8	64.3	34.7	43.4	54.7	60.0	38.3
16	76.0	24.0	75.6	24.1	63.8	35.2	55.7	44.3	50.0	48.3
17	○92.0	8.0	77.8	22.2	○80.9	18.6	71.7	28.3	○83.3	16.7
18	○86.0	14.0	○82.7	17.3	74.3	24.6	69.8	29.2	78.4	20.0
19	○88.0	12.0	○84.7	15.2	76.4	22.6	69.8	29.2	75.0	25.0
20	66.0	34.0	69.9	29.8	56.3	42.7	58.5	40.6	61.7	36.7
21	74.0	26.0	○82.4	17.6	○80.4	18.6	65.1	34.9	○81.7	15.0
22	○82.0	18.0	○82.7	17.3	○85.4	14.1	67.0	33.0	61.7	38.3
23	70.0	30.0	46.1	53.4	36.7	•61.8	46.2	53.8	41.7	58.3
24	○84.0	16.0	76.2	23.8	76.3	23.1	61.3	37.7	76.7	23.3
25	○92.0	8.0	○86.1	13.6	○88.5	10.6	77.4	21.7	○85.0	13.3
26	74.0	24.0	77.2	22.8	67.9	30.7	60.4	38.7	70.0	28.3
27	○84.0	16.0	○87.0	13.0	○80.4	19.1	71.7	28.3	60.0	40.0
28	○94.0	4.0	○93.2	6.8	○90.0	9.0	○84.9	15.1	○91.7	8.3
29	○88.0	12.0	○88.9	11.1	76.9	21.6	75.5	24.5	76.7	23.3
30	22.0	•78.0	33.4	•66.1	26.6	•71.9	32.1	•67.9	50.0	50.0
31	72.0	28.0	64.5	35.5	67.3	31.7	57.5	42.5	68.3	31.7
32	○86.0	14.0	○80.2	19.5	67.8	31.2	71.7	28.3	○81.7	18.3
33	○88.0	12.0	77.5	22.5	72.3	27.1	67.0	33.0	70.0	30.0
34	74.0	26.0	70.7	29.3	65.3	33.7	59.4	40.6	58.3	41.7
35	76.0	24.0	69.6	30.4	66.3	32.7	56.6	43.4	58.3	38.3
36	○82.0	14.0	○81.8	17.9	78.9	19.6	63.2	36.8	○80.0	18.3
37	○88.0	10.0	○88.0	11.4	○82.0	17.6	74.5	25.5	○81.6	15.0
38	68.0	32.0	53.1	46.6	34.2	•64.8	48.1	51.9	53.3	46.7
39	44.0	56.0	61.0	39.0	24.6	•74.4	35.8	•64.2	35.0	•65.0
40	40.0	•60.0	39.8	•60.2	26.1	•72.9	23.6	•76.4	30.0	•70.0
41	○86.0	14.0	58.8	41.2	51.7	46.2	75.5	24.5	55.0	43.3
42	74.0	26.0	57.7	42.3	51.7	46.7	60.4	39.6	58.3	38.3
43	54.0	46.0	49.6	50.4	57.8	41.2	41.5	57.5	48.4	50.0
44	58.0	42.0	47.7	52.3	50.7	48.2	29.2	•69.8	36.7	•61.7
45	49.0	51.0	49.8	49.6	56.3	42.7	40.6	59.4	46.7	51.7
46	78.0	22.0	65.3	34.7	69.3	29.6	57.5	42.5	58.3	40.0
47	54.0	46.0	66.9	33.1	57.3	41.7	53.8	46.2	51.7	46.7
48	○98.0	2.0	77.8	22,2	78.4	20.6	74.5	25.5	70.0	28.3
	N=50		N=369		N=199		N=106		N=60	

（注）○印は約80％以上の項目　●印は約60％以上の項目
100％＝「身についた」（「充分に」＋「ある程度」）＋「身についてない」＋N. R.

F　大		G　大		H　大		I　大		J　大	
身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない	身についた	身についてない
70.3	29.7	66.7	33.3	○88.3	10.9	○84.9	15.1	○88.5	11.5
61.4	38.6	43.9	56.1	52.0	47.3	79.1	20.1	50.8	49.2
72.3	27.7	57.1	42.1	67.6	31.6	71.9	27.3	47.5	49.2
12.9	●87.1	14.0	●86.0	40.7	58.5	15.1	●84.9	34.4	●65.6
13.9	●86.1	5.3	●94.7	17.5	●81.8	12.9	●87.1	8.2	●90.2
5.0	●94.1	1.8	●98.2	8.0	●90.9	4.3	●95.7	1.6	●98.4
52.5	47.5	68.4	31.6	56.5	32.7	49.0	50.4	65.6	34.4
46.5	53.5	47.4	52.6	50.9	48.4	59.0	41.0	49.2	50.8
53.5	46.5	42.1	57.9	54.9	43.6	41.8	57.6	39.3	●60.7
61.4	38.6	61.4	36.8	67.3	31.6	61.2	38.8	50.8	49.2
45.6	52.5	71.9	28.1	62.5	36.4	○91.4	8.6	75.4	24.6
68.3	30.7	○80.7	19.3	74.5	24.4	○84.2	15.1	○80.3	18.0
73.3	26.7	75.0	24.6	72.7	26.2	○79.9	18.7	73.8	24.6
46.5	53.5	52.6	47.4	55.6	43.3	56.1	43.9	40.9	57.4
66.3	33.7	64.9	35.1	77.1	21.1	72.6	26.6	68.8	26.2
64.4	35.6	68.4	31.6	73.1	25.5	○84.2	15.8	72.1	26.2
42.6	57.4	36.8	●63.2	40.4	58.2	48.9	50.4	19.6	●78.7
55.4	44.6	50.9	47.4	73.5	25.1	75.5	24.5	62.3	37.7
71.0	28.7	75.4	24.6	78.2	20.7	○89.9	10.1	73.8	26.2
63.4	36.6	52.7	43.9	64.7	33.5	67.6	30.9	62.3	37.7
71.3	28.7	70.2	29.8	72.3	26.2	74.8	24.5	63.9	36.1
○87.1	12.9	○93.0	7.0	○85.1	13.5	○96.4	2.9	○85.2	14.8
○80.2	19.8	66.7	33.3	76.3	22.5	82.0	18.0	73.7	24.6
24.8	●75.2	21.1	●78.9	30.6	●68.0	27.4	●71.9	13.1	●86.9
69.3	30.7	59.6	40.4	47.6	50.9	69.1	29.5	54.1	45.9
71.3	28.7	71.9	28.1	71.2	27.3	77.7	22.3	59.0	41.0
66.3	33.7	68.4	31.6	65.4	33.1	69.1	30.9	59.0	41.0
67.3	32.7	56.1	43.9	58.6	40.4	75.5	24.5	63.9	36.1
55.4	44.6	56.1	43.9	63.3	35.3	67.7	31.7	52.5	47.5
73.3	26.7	75.4	24.6	71.6	26.5	○82.7	17.3	75.4	21.3
76.2	23.8	○89.5	10.5	○82.9	15.3	○87.1	12.9	73.8	24.6
37.6	●62.4	38.6	●61.4	32.4	●65.8	29.5	●69.8	23.0	●75.4
43.6	56.4	15.8	●84.2	41.1	57.5	24.5	●74.8	26.2	●70.5
30.7	●69.3	14.0	●86.0	22.5	●75.6	26.7	●71.9	26.2	●73.8
51.5	48.5	61.4	38.6	40.8	57.8	○87.8	11.5	62.3	37.7
55.4	44.6	42.1	56.1	44.3	53.5	69.8	28.1	45.9	52.5
47.5	52.5	40.4	●59.6	41.1	57.5	60.4	39.6	37.7	●62.3
40.6	59.4	36.8	●63.2	33.1	●65.1	74.1	25.9	41.0	59.0
45.5	54.5	38.6	●61.4	44.4	54.2	57.6	42.4	46.7	52.5
56.4	43.6	64.9	35.1	59.2	39.3	68.3	31.7	59.0	41.0
32.7	●67.3	59.7	38.6	55.6	42.2	59.7	40.3	45.9	54.1
70.3	29.7	70.2	28.1	71.7	26.5	77.0	22.3	77.0	23.0
N＝101		N＝57		N＝275		N＝139		N＝61	

＜図表７＞ 大学教育の貢献 （大学別特徴）

	貢献している （「身についた」反応者の80％以上）	
	a．知的学習	b．情緒と道徳の発達
A 大	(1) 専攻領域に関する基礎知識 (2) 知的寛容 (3) 日本語能力（読む力・書く力） (4) 合理的思考力 (5) 継続的学習意欲 (6) 美的センス	(1) 自己発見 (2) 人間理解 (3) 価値観とモラル (4) 心理的健全さ
B 大	(1) 知的寛容 (2) 日本語能力（読む力） (3) 合理的思考力 (4) 美的センス	(1) 人間理解 (2) 価値観とモラル (3) 心理的健全さ (4) 自己発見
C 大	(1) 美的センス (2) 日本語能力（読む力） (3) 専攻領域に関する基礎知識 (4) 知的寛容	(1) 人間理解 (2) 自己発見 (3) 心理的健全さ
D 大	(1) 日本語能力（読む力）	(1) 人間理解
E 大	(1) 専攻領域に関する基礎知識 (2) 知的寛容	(1) 人間理解 (2) 自己発見
F 大		(1) 人間理解 (2) 価値観とモラル
G 大	(1) 合理的思考力	(1) 人間理解
H 大	(1) 日本語能力（読む力）	(1) 人間理解
I 大	(1) 専攻領域に関する基礎地識 (2) 日本語能力（読む力） (3) 合理的思考力 (4) 美的センス (5) 知的寛容	(1) 人間理解 (2) 自己発見
J 大	(1) 日本語能力（読む力） (2) 合理的思考力	(1) 人間理解

	貢献してない　（「身についてない」反応者の60％以上）		
c．実生活上の能力	a．知　的　学　習	b．情緒と道徳の発達	c．実生活上の能力
(1) 健康 (2) 達成欲求 (3) 未来志向 (4) 適応性 (5) リーダーシップ（処理能力） (6) 希望職種の知識・技能	(1) 外国語能力	(1) 宗教的関心	(1) 市民性
(1) リーダーシップ（処理能力） (2) 適応性 (3) 達成欲求	(1) 外国語能力（聞く力・話す力）	(1) 宗教的関心	(1) 市民性
(1) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力 (2) 創造性	(1) 宗教的関心	(1) 市民性 (2) リーダーシップ（組織力）
	(1) 外国語能力	(1) 宗教的関心	(1) 市民性 (2) 健全な家庭生活
(1) 達成欲求 (2) リーダーシップ（処理能力） (3) 適応性	(1) 数理能力（数学・統計） (2) 外国語能力（話す力）		(1) 市民性 (2) 健全な家庭生活
	(1) 外国語能力	(1) 宗教的関心	(1) リーダーシップ（組織力） (2) 市民性 (3) 卒業後の継続的学習
(1) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力 (2) 創造性	(1) 宗教的関心	(1) 市民性 (2) 健全な家庭生活 (3) 消費者としての能力 (4) リーダーシップ（組織力）
(1) リーダーシップ（処理能力）	(1) 外国語能力（聞く力・話す力）	(1) 宗教的関心	(1) 市民性 (2) リーダーシップ（組織力） (3) 健全な家庭生活
(1) 希望職種の知識・技能 (2) リーダーシップ（処理能力） (3) 適応性	(1) 外国語能力	(1) 宗教的関心	(1) リーダーシップ（組織力） (2) 市民性
	(1) 外国語能力 (2) 創造性 (3) 伝統的文化の教養	(1) 宗教的関心	(1) リーダーシップ（組織力） (2) 市民性 (3) 健全な家庭生活

a．知的学習　：　まず日本語能力の中の読む力（Q 7）の修得には10大学の多くが貢献している。つぎに合理的思考力（Q 18）の修得ではA大・B大・G大・I 大・J 大の5校に貢献がみられる。他に，専攻領域に関する基礎知識（Q17），知的寛容（Q 19のリベラルなものの見方・考え方，Q21の多元的なものの見方・考え方）および美的センス（Q 22）の修得に対しても数校で貢献がみられる。ただし専攻領域に関する基礎知識の修得に貢献しているのは，A大・C大・E大・I 大の4校で，入学が難しい大学は1校もない。

個別大学でみれば，多くの資質・能力の修得に貢献している大学は，A大・B大・C大・I 大を挙げることができる。この4校は全て私立でG大・H大・J 大の国立校は1校も出てこない。学生の評価基準の違いがこの結果に影響しているかも知れないが，学生の期待に応えた教育の効果においては私立大の各校が勝るといえよう。

さて，大学教育が貢献してないものとしてまず挙げられるのが外国語能力（Q 10，11，12）である。外国語専門のE大は別格として，入学水準の高いB大・H大は聞く力（Q 11），話す力（Q 12），そして他の残り7校は読む力（Q 10）さえもその修得に貢献してない。また，女子大のC大や教員養成大学のG大そして教員養成学部のJ 大では，創造性（Q 23）に貢献してないという特徴が目につく。

b．情緒と道徳の発達　：　人間理解（Q 28）の修得には10大学全てに貢献がみられる。裏返せば，大学側の意識的な教育的配慮がそれほど強くされなくても，人間理解の修得は容易に行われやすいのかも知れない。その他数校では自己発見（Q 25の自己確認），心理的健全さ（Q 27），価値観とモラル（Q 29）の修得への貢献がみられる。

情緒と道徳の発達面への貢献でも，公団立D大・国立大のG大・H大・J 大は人間理解の修得だけに止まり，私立大のグループに比べて劣る。

他方，貢献してないものについてみよう。E大を除く9校全てに宗教的関心への貢献がみられない。このような特徴は日本人一般について予想できるところであるが，E大が例外になったのは多分に徳育を重視する当大学の特色が影響を与えたと思われる。

c．実生活上の能力　：　リーダーシップ（Q 37の処理能力）の修得に対する貢献が10大学中多くの大学でみられる。他には，適応性（Q 36の協調性），達成欲求（Q 32）への貢献も数校でみられる。またA大・I 大では希望職種の知識・技能（Q 41）への貢献が挙げられる。

個別大学別にみると，A大・B大・E大・I 大が多くの資質・能力の修得に貢献している。この面でも国立校の貢献は私立校のそれより劣る。

他方，貢献してないものには，市民性（Q 39，40）を挙げることができる。この特徴は10大学全てに共通している。市民性の修得については，米国では民主主義の発展の基礎と考えられているし，日本でも教育基本法第8条第1項に政治的教養の尊重が強調されていて，その重要性は広く認められている。かかるタテマエにもかかわらず，市民性の修得とくに団体活動への参加態度（Q 40）に貢献してないという特徴が10大学全てに一様に見られるのは，日本の大学と学生の公民生活に関する態度と理解に，大きな問題が伏在することを物語っている。なおその他に貢献がみられないものとして，組織力としてのリーダーシップ（Q 38），健全な家庭生活（Q 43，44）などが挙げられる。

以上，大学教育の貢献についてその大学別特徴をみてきた。特徴を記述する過程で明らかになってきたのは，データでみる限り，国立大の各校より私立大の各校が貢献の面で勝る点である。

もちろん，これはわが国の大学全体に一般化はできない。しかしその限界は認めるとしても，私立大学における積極的教育努力が効果を上げていること，その反面，国立大学には積極的な教育努力があまりなされていないことを，推測させるであろう。

3. 要　約

単純集計によって調査結果を記してきたが，ここではそれらの要約を，調査対象10大学全てにあるいはその多くに共通な特徴に絞って行う。

(1) 学生の期待は，a．知的学習では日本語能力，専攻領域に関する基礎知識，b．情緒と道徳の発達では人間理解，価値観とモラル，c．実生活上の能力ではリーダーシップ，の修得がある。

(2) 大学教育の貢献は，a．知的学習では日本語能力（とくに読む力），b．情緒と道徳の発達では人間理解，c．実生活上の能力ではリーダーシップ，の修得にみられる。

学生の期待と大学教育の貢献を関連させてみると，実生活上の能力以外では大学教育は学生の期待にあまり応えていないことがわかる。

（池　田）

Ⅲ　回答内容の因子分析による考察

1. 修得目標の因子

調査対象となった学生集団が大学教育を通じて修得したいと考えている資質・能力の構造はどのようなものであるか，すなわち，彼らの修得目標の構造はどのようなものかを知るために，われわれが大学教育目標として設定した42の資質・能力項目（Q 7～Q 48）のそれぞれについて，身につけることが重要と考える程度を問い，その回答内容を因子分析した。その結果，4つの因子が抽出された。以下，これらを目標因子と総称する。

図表8は，全項目についての因子負荷量の一覧であるが，それが高い項目（0.390以上）にはその下に実線が引いてある。図表9は，各因子ごとに，0.39以上の負荷量を持つ項目をその大きさの順に配列したものである。

抽出された4因子の因子名は，図表9に示すように，第一因子を実生活能力，第二因子を人間関係能力，第三因子を一般教養，第四因子を外国語能力とした。これらの4因子は，日本の学生集団全体が有する因子の全てというわけでは勿論無いが，今日の日本の学生が持つ修得目標は，この4因子で説明可能と仮説する。

＜図表 8 ＞　目標因子負荷量一覧

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4
Q 7	−0.04749	0.28964	0.16797	0.14413
Q 8	−0.01276	0.45872	0.07621	0.23257
Q 9	0.03403	0.52054	0.07789	0.16478
Q 10	−0.03483	0.12441	0.15835	0.65609
Q 11	0.10398	0.07061	0.09815	0.72602
Q 12	0.11024	−0.00034	0.16523	0.68897
Q 13	0.13352	0.06593	0.14402	0.28663
Q 14	0.14504	0.19694	0.11624	0.24711
Q 15	0.00342	0.08733	0.54275	0.16679
Q 16	−0.01257	0.18901	0.48479	0.10554
Q 17	−0.09759	0.42987	−0.07886	0.20677
Q 18	0.03668	0.48996	0.25539	0.04790
Q 19	−0.04163	0.48139	0.35457	0.00058
Q 20	0.09268	0.46553	0.27385	0.09282
Q 21	0.10907	0.31817	0.47331	0.09107
Q 22	0.19669	0.17495	0.53268	0.03562
Q 23	0.17421	0.14941	0.39908	0.13631
Q 24	0.33218	0.24406	0.15244	0.09079
Q 25	0.25735	0.46620	0.09913	−0.01433
Q 26	0.34615	0.30998	0.24619	−0.00935
Q 27	0.29160	0.54025	0.16703	−0.06875
Q 28	0.42029	0.48864	0.12780	−0.11071
Q 29	0.29832	0.54564	0.17057	−0.07649
Q 30	0.27954	−0.03839	0.42361	0.15210
Q 31	0.54379	0.03512	0.17792	0.06388
Q 32	0.45452	0.45394	0.09127	0.01047
Q 33	0.36914	0.45651	0.11614	0.12383
Q 34	0.31446	0.43136	0.15402	0.04481
Q 35	0.47698	0.46198	0.09615	0.05679
Q 36	0.45530	0.30502	0.19476	0.08243
Q 37	0.39627	0.55883	0.07362	−0.01818
Q 38	0.34751	0.11859	0.27442	0.17194
Q 39	0.28235	0.14742	0.39518	0.06918
Q 40	0.34783	0.00264	0.36766	0.09316
Q 41	0.33234	0.29518	−0.11062	0.11645
Q 42	0.53009	0.16562	0.01809	0.10701
Q 43	0.75133	0.04128	0.03568	0.04202
Q 44	0.70739	0.00798	0.07932	0.01227
Q 45	0.70334	−0.00586	0.12628	0.04314
Q 46	0.58697	0.07581	0.14180	0.08700
Q 47	0.24626	0.22029	0.28157	0.16368
Q 48	0.50591	0.26539	0.14604	0.01534

＜図表９＞　目標因子負荷量（0.390以上）及び因子名

第一因子（実生活能力）　　因子負荷量

Q 43.	安定した家庭をつくりあげる能力を身につける	0.751
44.	子どもを育てるための知識や能力を身につける	0.707
45.	じょうずな消費生活を送る方法を身につける	0.703
46.	仕事やレジャーその他の活動に，時間をうまく配分する力を身につける	0.587
31.	洗練された趣味や礼儀作法を身につける	0.544
42.	新しい仕事や職場に適応する能力を養う	0.530
48.	心身の健康を維持・向上するための知識を修得する	0.506
35.	困難や危機をうまく処理していく能力を養う	0.477
36.	人とよく相談してものごとを進める能力を養う	0.455
32.	ものごとをりっぱにやりとげようとする意欲を養う	0.455
28.	他人に対する共感や思いやり・協調性を養う	0.420
37.	責任をもって物事を処理する姿勢・態度を身につける	0.396

第二因子（人間関係能力）

Q 37.	責任をもって物事を処理する姿勢・態度を身につける	0.559
29.	社会に対する関心と責任感を身につける	0.545
27.	適切な自己主張・自信・自発性を養う	0.540
9.	自分の考えを筋道をたてて話す能力を養う	0.520
18.	事実を独断や感情をまじえず，客観的にみる力を養う	0.490
28.	他人に対する共感や思いやり・協調性を養う	0.490
19.	既成の権威にとらわれず，自由に物事を考える力を養う	0.481
25.	自分の能力・志望・価値感を知る	0.466
20.	複雑でめんどうな問題に恐れず取り組む探求心を養う	0.466
35.	困難や危機をうまく処理していく能力を養う	0.462
8.	論文・レポートをはっきりわかるように書く能力を養う	0.459
33.	事前に慎重に準備し計画する能力を養う	0.457
32.	ものごとをりっぱにやりとげようとする意欲を養う	0.454
34.	将来に対する冷静で客観的な見方を身につける	0.431
17.	専攻領域に関する基礎知識を充分にもつ	0.430

第三因子（一般教養）

Q 15.	伝統的な西洋文化・東洋文化についての基礎的理解をもつ	0.543
22.	文学・美術・自然の美しさに関する知識・関心・鑑賞能力を高める	0.533
16.	現代の人文・社会・自然の諸科学，芸術などについての基礎的理解をもつ	0.484
21.	物事には民族や文化により様々な見方・考え方があることを認める態度を養う	0.473
30.	宗教的なものについて真面目に探求する姿勢を養う	0.424
23.	新しい仮説やアイデァを作りだし，または芸術作品を創作する創造力や独創性を養う	0.399

Q 39. 政治のしくみや政党の政策・主張を正しく理解する能力を養う …… 0.395

第四因子（外国語能力）

Q 11. 外国語を正しく聞きとる能力を養う …… 0.726

12. 外国語で自分の考えを筋道をたてて話す能力を養う …… 0.689

10. 外国語文献を読んで理解する能力を養う …… 0.656

ところで，一般教養及び外国語能力の修得という目標は，これまで日本の大学において主要な大学教育目標として把えられてきたもので，学生にとっても，これらは，伝統的な修得目標と言えるものである。ただし，外国語能力の修得には，伝統的な意味での教養的側面の他に，専門的技能としての実利的・実践的側面もあるので，この目標は，一概に伝統的なものと言うことはできない。

これらの伝統的タイプの目標に対して，実生活能力及び人間関係能力の修得という目標は，いわば，新しいタイプの目標といえるものである。このような目標が，学生の意識構造として明確に把えられるということは，高等教育の大衆化という観点から見て，留意すべきところであろう。

2. 修得された資質・能力の因子

調査対象となった学生集団が大学教育を通じて修得したと考えている資質・能力の構造を把握するために，前述の42の資質・能力項目のそれぞれについて，身につけた程度を問い，その回答内容を因子分析した結果，4つの因子が抽出された。以下，これらを修得因子と総称する。

目標因子の場合と同じ要領で，図表10に，全項目についての因子負荷量の一覧を示し，図表11には，各修得因子ごとに，因子負荷量の高い項目を，その大きさの順に配列した。

＜図表１０＞　修得因子負荷量一覧

	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4
Q 7	0.17294	0.12731	0.39415	0.13383
Q 8	0.22395	0.19420	0.33172	0.13584
Q 9	0.35806	0.14129	0.24656	0.15451
Q 10	0.08957	0.02179	0.17580	0.57084
Q 11	0.09810	0.04832	0.05917	0.74441
Q 12	0.06457	0.11024	0.06297	0.60655
Q 13	0.14755	0.09193	0.22315	0.14053
Q 14	0.17916	0.19128	0.32199	0.10383
Q 15	0.09123	0.06195	0.54177	0.04936
Q 16	0.16412	0.11422	0.63196	0.00521
Q 17	0.25191	0.24085	0.37690	0.10740
Q 18	0.47665	0.06687	0.24840	0.04777
Q 19	0.47915	0.05382	0.30431	0.03614
Q 20	0.48343	0.07962	0.32442	0.18854
Q 21	0.31443	0.08204	0.39860	0.05771
Q 22	0.26609	0.14314	0.40779	0.01052
Q 23	0.30892	0.19333	0.31090	0.09612
Q 24	0.37194	0.19388	0.34029	0.08192
Q 25	0.45070	0.18669	0.27392	0.03086
Q 26	0.44279	0.18792	0.18733	0.07923
Q 27	0.58193	0.17698	0.24621	0.08184
Q 28	0.54587	0.16650	0.08102	0.01643
Q 29	0.54523	0.17972	0.21013	0.02593
Q 30	0.17904	0.15988	0.17302	0.13673
Q 31	0.40112	0.33175	0.15661	0.07769
Q 32	0.52197	0.22282	0.21844	0.13252
Q 33	0.46038	0.22321	0.23256	0.08076
Q 34	0.49419	0.25484	0.18820	0.12325
Q 35	0.54520	0.26906	0.17220	0.13199
Q 36	0.52098	0.20968	0.07846	0.04702
Q 37	0.56204	0.23354	0.17357	0.05065
Q 38	0.41330	0.24402	0.15333	0.18954
Q 39	0.33879	0.15255	0.30711	0.13271
Q 40	0.26156	0.22572	0.21332	0.13830
Q 41	0.24270	0.39212	0.27628	0.07788
Q 42	0.28613	0.47295	0.18401	0.03967
Q 43	0.19981	0.72472	0.09331	0.05252
Q 44	0.17539	0.68686	0.10301	0.06727
Q 45	0.14896	0.55159	0.15769	0.03560
Q 46	0.30102	0.41581	0.13888	0.06435
Q 47	0.28951	0.35771	0.32431	0.13570
Q 48	0.37125	0.35538	0.21389	0.06803

＜図表 11＞　修得因子負荷量（0.390 以上）及び因子名

	第一因子（人間関係能力）	因子負担量
Q 27.	適切な自己主張・自信・自発性を養う	0.582
37.	責任をもって物事を処理する姿勢・態度を身につける	0.562
28.	他人に対する共感や思いやり・協調性を養う	0.545
29.	社会に対する関心と責任感を身につける	0.545
35.	困難や危機をうまく処理していく能力を養う	0.545
32.	ものごとをりっぱにやりとげようとする意欲を養う	0.522
36.	人とよく相談してものごとを進める能力を養う	0.521
34.	将来に対する冷静で客観的な見方を身につける	0.494
20.	複雑でめんどうな問題に恐れず取り組む探求心を養う	0.483
19.	既成の権威にとらわれず，自由に物事を考える力を養う	0.479
18.	事実を独断や感情をまじえず，客観的にみる力を養う	0.477
33.	事前に慎重に準備し計画する能力を養う	0.460
25.	自分の能力・志望・価値観を知る	0.451
26.	自分がかけがえのない人間であることを自覚する	0.443
38.	組織をつくり，組織を動かしていく力を養う	0.413
31.	洗練された趣味や礼儀作法を身につける	0.401
	第二因子（家庭・経済生活能力）	
Q 43.	安定した家庭をつくりあげる能力を身につける	0.725
44.	子どもを育てるための知識や能力を身につける	0.687
45.	じょうずな消費生活を送る方法を身につける	0.552
42.	新しい仕事や職場に適応する能力を養う	0.473
46.	仕事やレジャーその他の活動に，時間をうまく配分する力を身につける	0.416
41.	希望職種に関する知識・技能を身につける	0.392
	第三因子（人文的教養）	
Q 16.	現代の人文・社会・自然の諸科学，芸術などについての基礎的理解をもつ	0.632
15.	伝統的な西洋文化・東洋文化についての基礎的理解をもつ	0.542
22.	文学・美術・自然の美しさに関する知識・関心・鑑賞能力を高める	0.408
21.	物事には民族や文化により様々な見方・考え方があることを認める態度を養う	0.399
7.	日本語文献を読んで理解する能力を養う	0.394
	第四因子（外国語能力）	
Q 11.	外国語を正しく聞きとる能力を養う	0.744
12.	外国語で自分の考えを筋道をたてて話す能力を養う	0.607
10.	外国語文献を読んで理解する能力を養う	0.571

修得因子の因子名は，図表11が示すように，第一因子を人間関係能力，第二因子を家庭・経済生活能力，第三因子を人文的教養，第四因子を外国語能力とした。

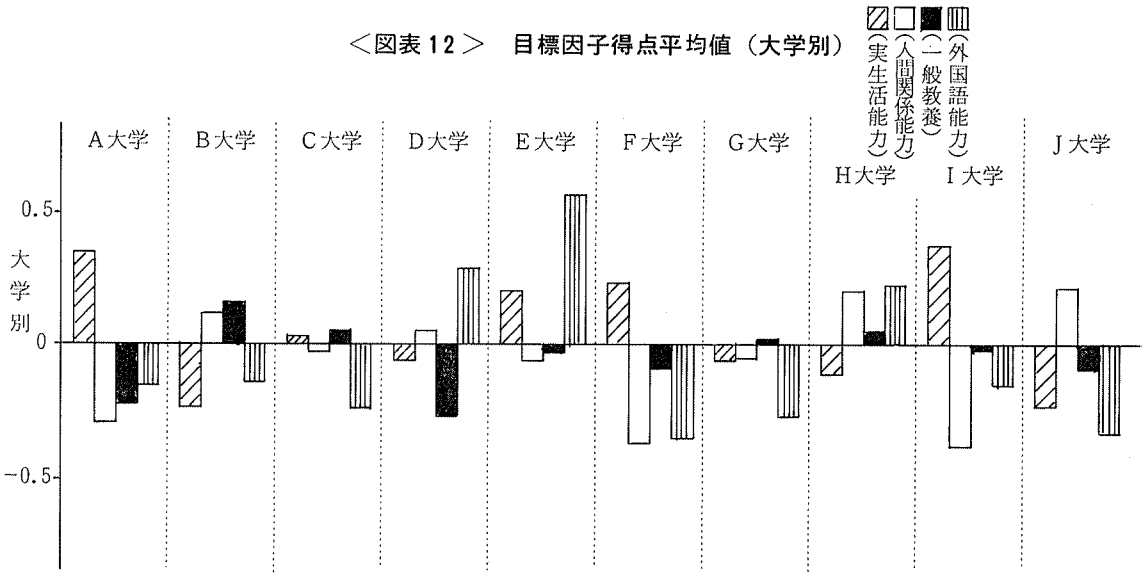
これら修得の4因子は，前述の目標の4因子と密接な対応関係にあるが，外国語能力因子を除いて，完全に一致しているわけではなく，両者間には，内容的に若干の相違が見いだされる。すなわち，第二修得因子である家庭・経済生活能力は，第一目標因子である実生活能力よりも，内容的に明らかに狭い。このことは，第三修得因子としての人文的教養と第三目標因子としての一般教養との関係についても同様である。人間関係能力についてみれば，第一修得因子の中には，「自分の考えを筋道立てて話す能力」「論文・レポートをはっきりわかるように書く能力」「専門領域に関する基礎知識」が含まれていない。

このように，目標因子と修得因子は，内容的に若干相違しているが，その相違は僅かであり，これによって，両者の対応関係が損われるということは無い。したがって，以下の「3．修得目標の大学別特徴」，「4．修得された資質・能力の大学別特徴」に関する考察では，この対応関係を前提として，論を進めることにする。

3. 修得目標の大学別特徴

4つの目標因子のそれぞれについて，各被験者の因子得点を求め，大学別にそれらの平均値を算出した。図表12は，大学別平均値を棒グラフで示したものである。

＜図表12＞　目標因子得点平均値（大学別）



因子得点とは，抽出された各因子の持つ傾向を被験者の個人個人がどの程度強く有するかを示すものであるから，因子得点の大学別平均値を検討することによって，修得目標の大学別特徴，すなわち，各大学の学生集団がもつ主要な修得目標を知ることができる。

図表12から判るように，4つの目標因子に対応する4つの因子得点平均値中，「実生活能力」が著しく高く，他はすべてマイナスとなっている大学は，A，F，Iの3大学である。よって，これらの大学の学生集団は，実生活能力の修得を主要な目標としていると言える。なお，これらの大学はすべて，大衆型に属する私立の単科大学である。一般に，この型に属する大学の学生集団は，このような目標を共有していると仮説できるであろう。

伝統的タイプの目標である一般教養及び外国語能力についてみると，これらが双方とも高い数値を示す大学は一校も無い。しかし，「一般教養」のみでは，B大学が，「外国語能力」のみでは，D・E・H大学が高い数値を示している。B大学は伝統ある私立の総合大学，H大学は旧帝大を前身とする国立大学で，これらは，いわば，エリート型に属する大学である。この両大学では，これらに次いで，「人間関係能力」が高い数値を示しているので，両大学の学生集団は，伝統的な目標に加えて人間関係能力の修得という目標をも有していると言える。このように，B・H大学の学生集団と前述のA・F・I大学の学生集団の修得目標は，明らかに異なる。ただし，この場合に，B大学での調査対象は上級生のみということを留意する必要があろう。

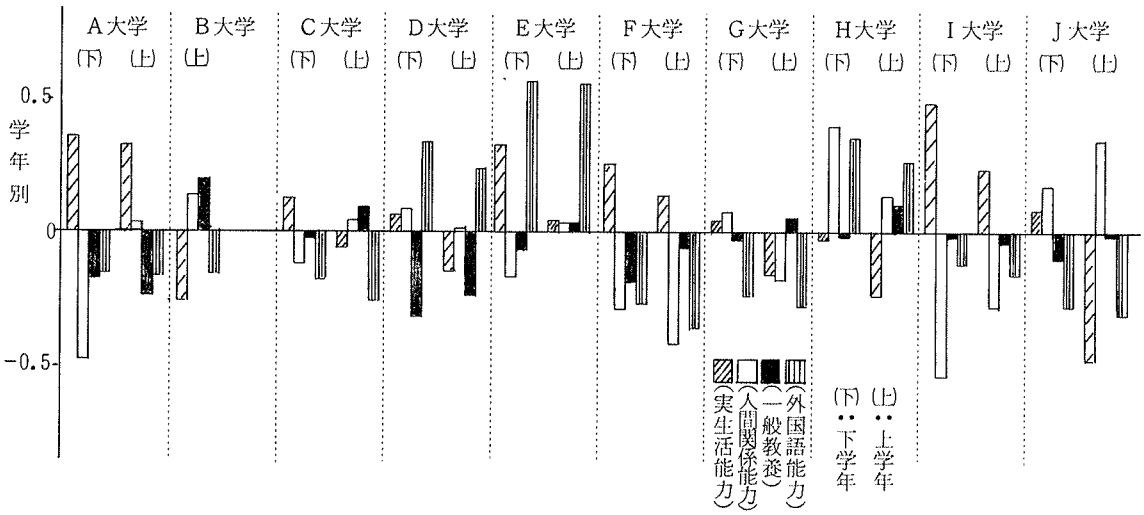
E大学においても，主要な修得目標は外国語能力を身につけることとなっているが，これは，大衆型に属する私立の外国語単科大学という属性を反映した結果と思われる。従って，外国語能力の修得とは言っても，E大学の場合，H大学とは異なって，教養的側面よりも実践的，実利的側面が強いのではなかろうか。

4つの因子得点平均値中，「人間関係能力」のみがプラスとなっている大学は，J大学だけである。この大学は，農・工・教育の三学部を擁する，いわば，エリート型の国立大学であるが，B・H大学とは異なって，同大学の学生集団には，伝統的目標への関心があまり見受けられない。

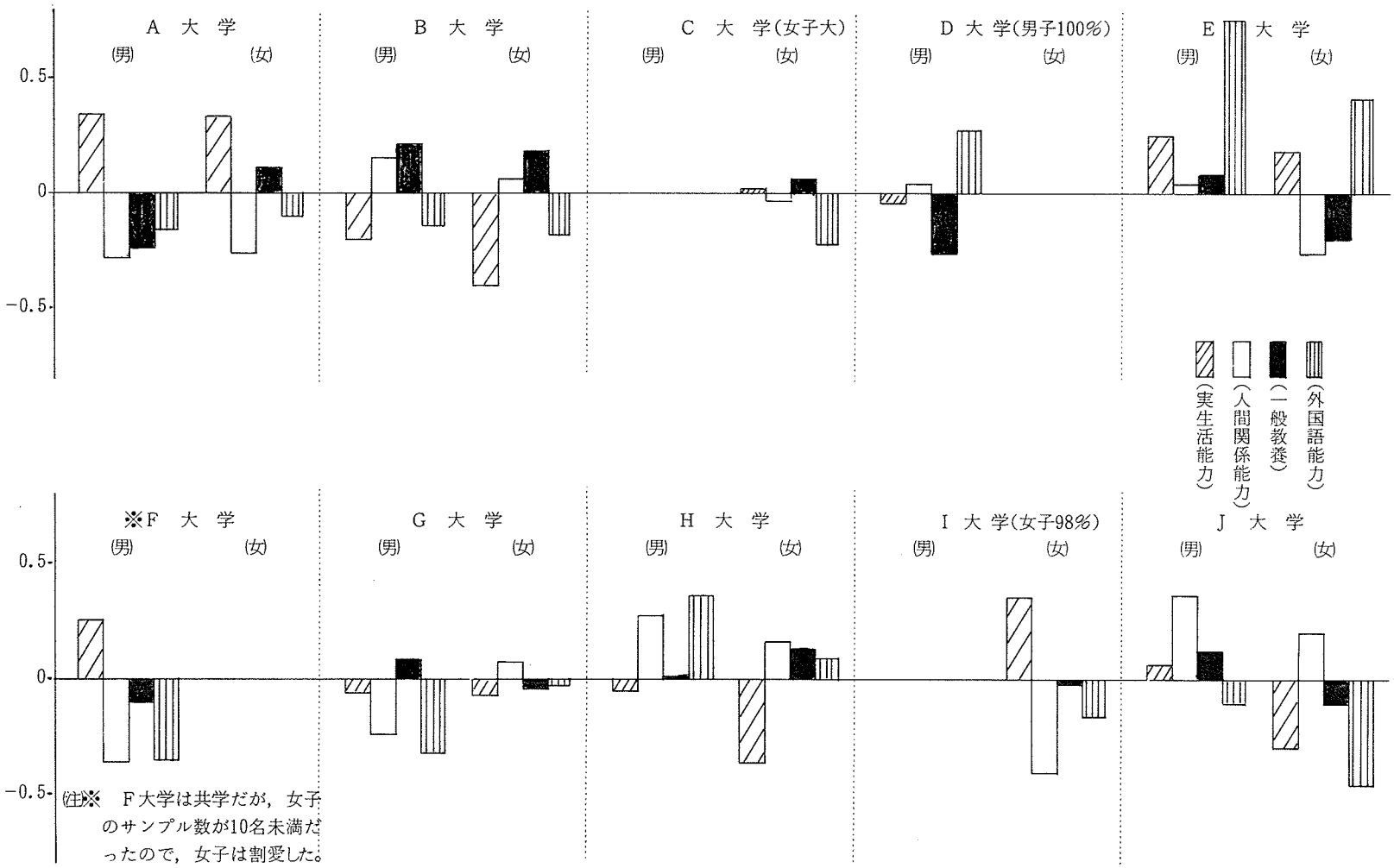
最後に，4つの因子得点平均値の中で，一つまたは二つが僅かにプラスであり，残りのすべては，マイナスとなっている大学として，C，G大学がある。これらの大学の学生集団は，これといった修得目標をもっていないものと思われる。C大学は，前述のI大学と同様に大衆型の家政学部を有する私立女子大であるが，修得目標において，両者は，明白な相違をみせている。G大学は，国立の教育大学である。教育大学という属性がこの結果にどう反映しているかは不明だがこの結果自体は，望ましいものとは言い難い。

以上，修得目標の大学別特徴を概観したが，続いて，これをさらに詳細に，各大学の学年別（図表13），性別（図表14），学業成績別（図表15）集計でみることにしよう。

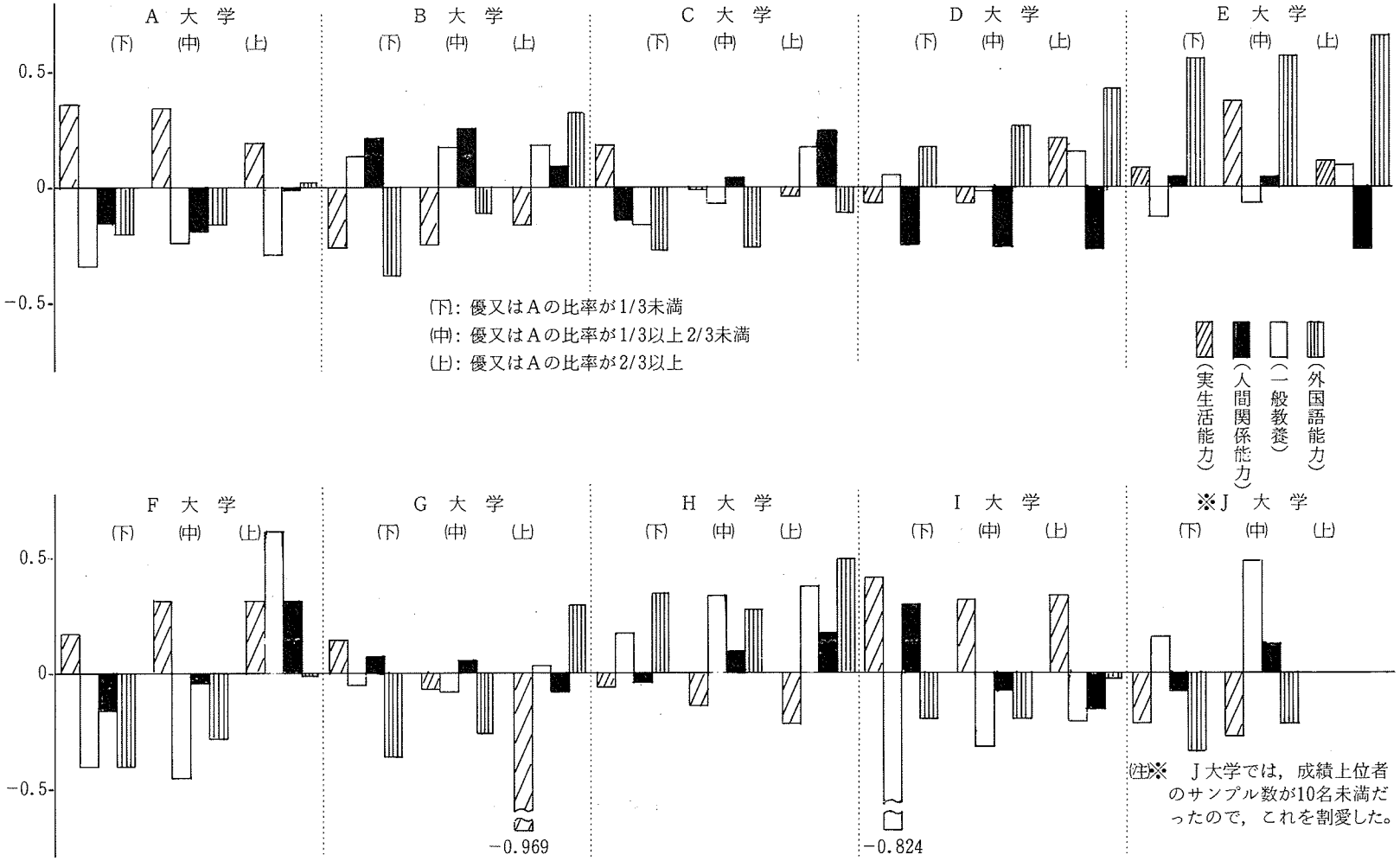
＜図表13＞　目標因子得点平均値（大学別・学年別）



＜図表 14＞　目標因子得点平均値（大学別・男女別）



＜図表 15＞　目標因子得点平均値（大学別・成績別）



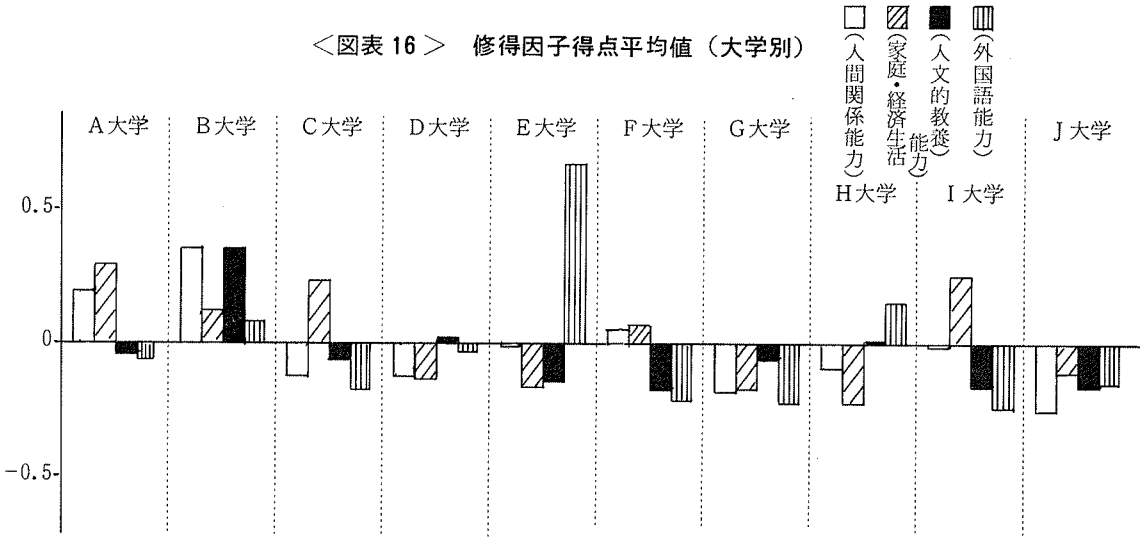
(注)※　J大学では，成績上位者のサンプル数が10名未満だったので，これを割愛した。

図表から判るように，学年別（下学年，上学年）及び性別によっては，どの大学においても，修得目標が異なるということはなく，それは，既述した各大学における主要な修得目標と一致している。ただし，上学年よりも下学年の方が，そして，女子よりも男子の方が主要な修得目標の因子に対応する因子得点平均値が概して高く，学年別・性別によって目標意識の強さが異なっている。学業成績別にみても，C・F・Gの三大学を除く7大学では，主要な修得目標に変化は無いが，この場合も，成績の良し悪しによって，目標意識の強さが異なっており，成績の良い学生の方が概して強い。C・F・G大学には，成績の良し悪しによって，主要な修得目標が全く異なる学生集団が共存しているが，この多様性は，大学内でのサブ・カルチャーという観点から言って注目に値すると思われる。

4. 修得された資質・能力の大学別特徴

目標因子の場合と同じ要領で，4つの修得因子のそれぞれについて，大学別に因子得点の平均値を求め，それを棒グラフで示したのが図表16である。

＜図表16＞ 修得因子得点平均値（大学別）



この図表から判るように，実生活能力の修得という主要な目標に対応して，家庭・経済生活能をかなり身につけたと自己評価しているのは，大衆型に属する私立のA・C・F・I大学の学生集団である。

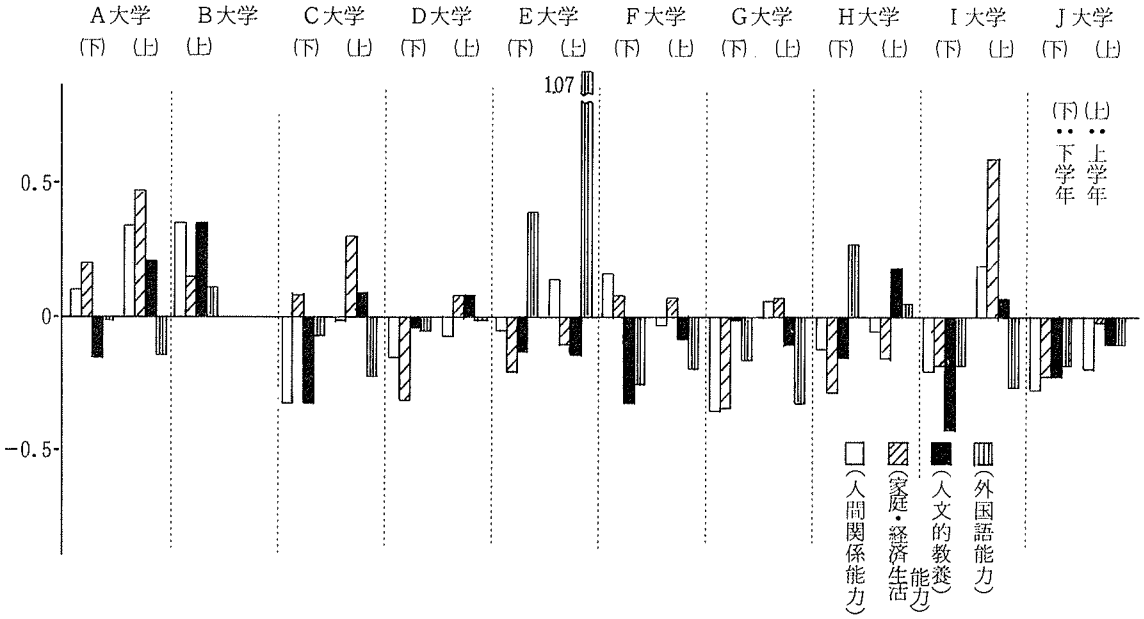
つぎに，外国語能力の修得という目標に対応して，これを身につけたとしているのは，E・H大学の学生集団である。ただし，この目標と並んで，E大学では実生活能力の修得が，H大学では人間関係能力の修得が目標としてあがっていたが，これらは，あまり修得されていないと自己評価されている。

4つの因子得点平均値のすべてがマイナスとなっているのは，国立のG・J大学である。これらの大学の学生集団には，確実に身につけた資質・能力はこれといって無い傾向が自己評価の結果示されているといえる。公団立のD大学の学生集団も似たような傾向である。他方，D・G・J大学とは対照的に，4つの因子得点平均値がすべてプラスであって，大学教育のかなりの成功を示しているのは，私立のB大学である。この場合も，しかしながら，B大学での調査対象は上学年のみであるという点を留意する必要があろう。

以上，修得された資質・能力の大学別特徴を概観すると，主要な修得目標の達成度は，私立大生の方が，国・公団立大生よりも概して高いという設置者別の相違が見いだされる。

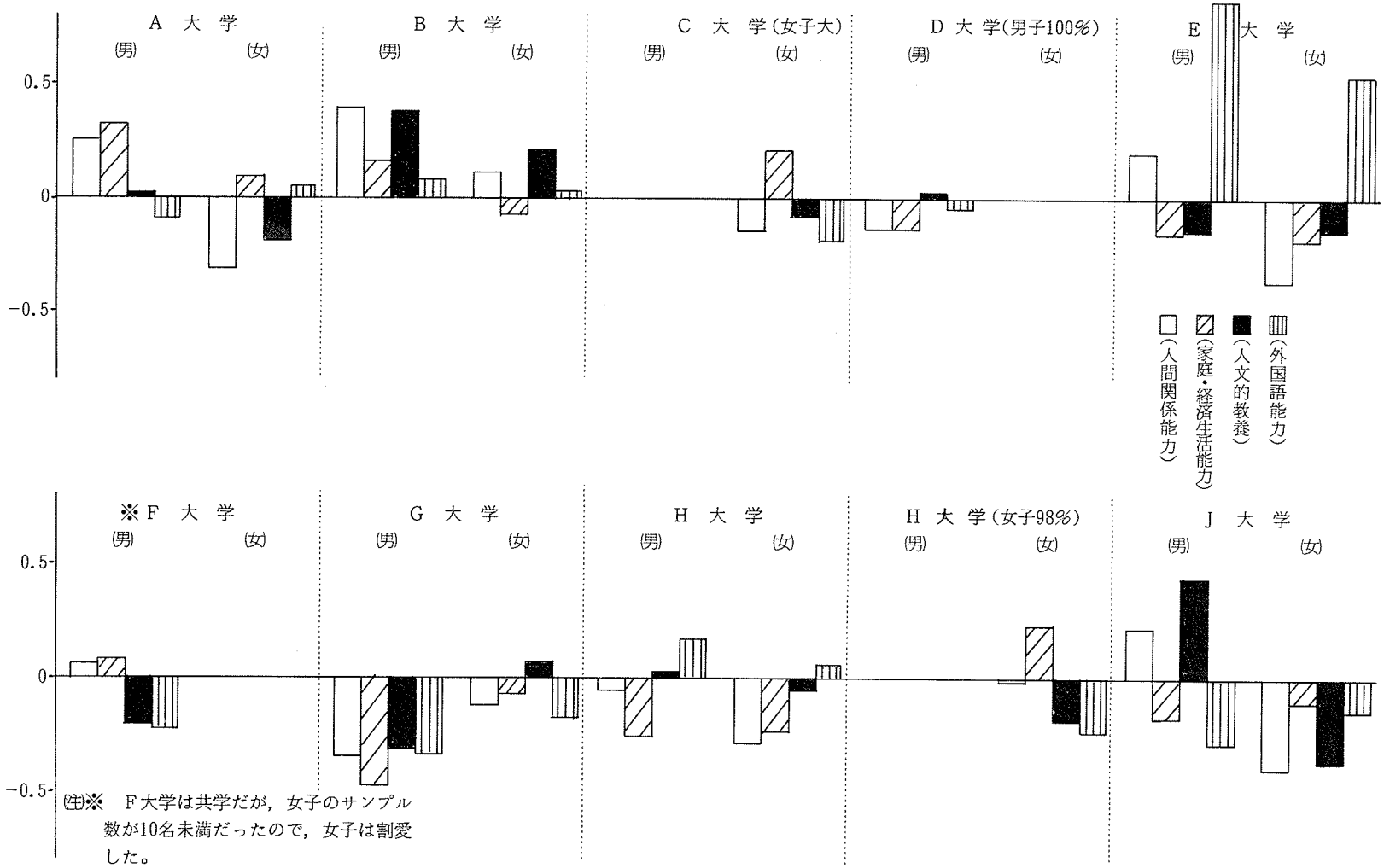
次ぎに，修得された資質・能力を各大学の学年別（図表17）・性別（図表18）・学業成績別（図表19）集計でみることにする。

＜図表 17＞　修得因子得点平均値（大学別・学年別）



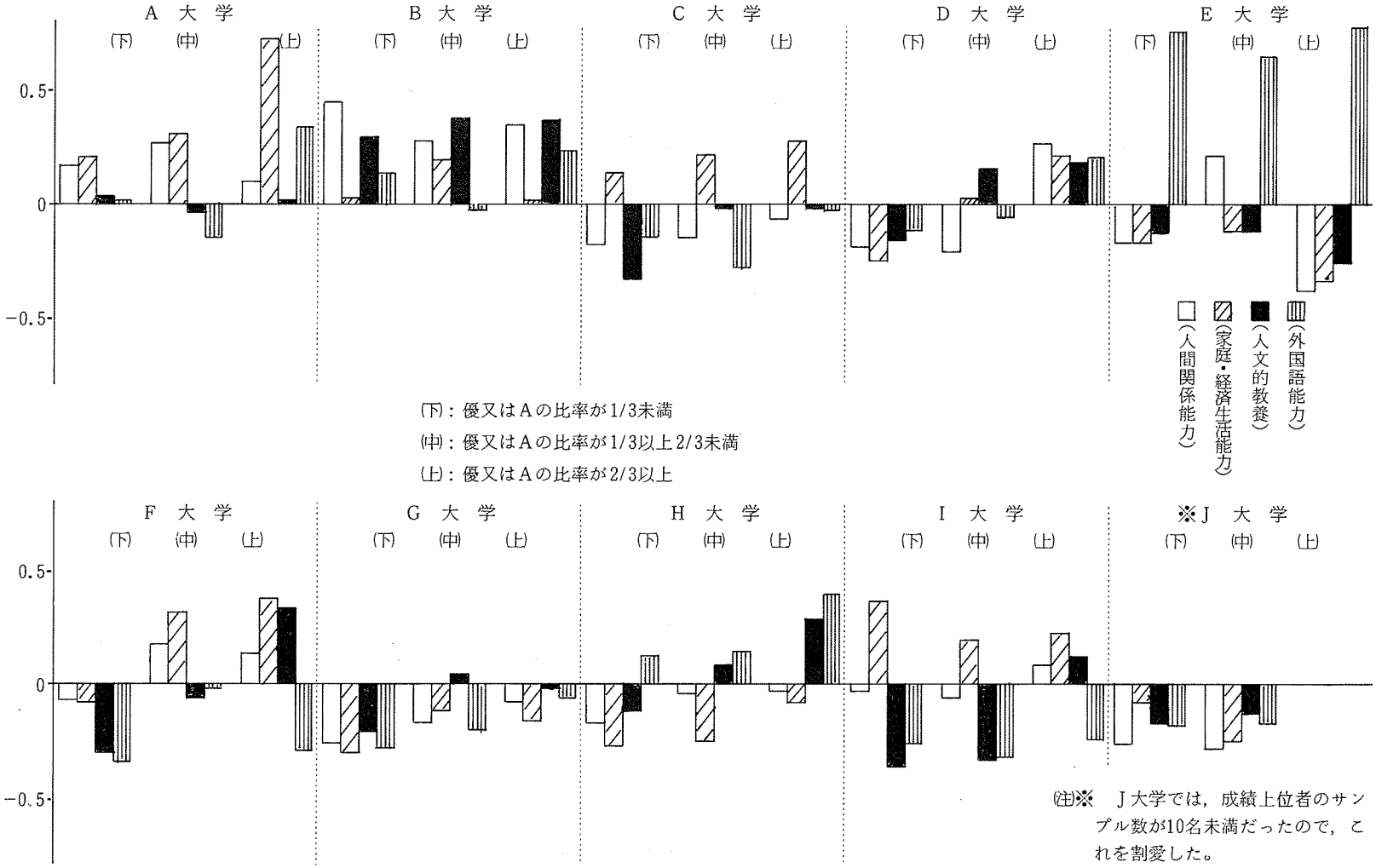
まず，学年別でみると，上学年の方が下学年よりも，概して，主要な修得目標としての資質・能力の修得度が高く，この傾向は，A・I 大学で顕著である。男女別では，男子の方が概して修得度が高く，特にJ 大学でそうである。学業成績別では，成績の良い学生の方が悪い学生よりも主要な修得目標としての資質・能力のみならず，その他の資質・能力においても，高い修得度を示している。この傾向はD・F 大学の成績上，下グループの間において，特に顕著である。

＜図表 18＞　修得因子得点平均値（大学別・男女別）



(注)※　F大学は共学だが，女子のサンプル数が10名未満だったので，女子は割愛した。

＜図表 19＞　修得因子得点平均値（大学別・成績別）



(下)：優又はAの比率が1/3未満
(中)：優又はAの比率が1/3以上2/3未満
(上)：優又はAの比率が2/3以上

(注)※　J大学では，成績上位者のサンプル数が10名未満だったので，これを割愛した。

5. 要　約

以上，学生の修得目標及び身につけたとされる資質・能力に関する因子分析結果を考察したがこれを要約すれば次の5点である。

第一に，学生の修得目標の構造は，実生活能力，人間関係能力，一般教養，外国語能力の4因子で説明可能である。学生が修得したとする資質・能力の構造も，目標のこの4因子と対応する4因子，すなわち，家庭・経済生活能力，人間関係能力，人文的教養，外国語能力で説明されうる。

第二に，各大学の学生集団は，この4つの目標因子のうち，1つ或いは2つを主要な修得目標としているが，大衆型大学の学生集団間では，主要な修得目標に関して一致が見いだされ，それは，実生活能力の修得である。

第三に，学年別・性別では10大学を通じて，学業成績別では若干の大学を除いて，主要な修得目標は同じであっても，その意識の強さが異なる学生集団が，同一大学内に見いだせる。加えて学業成績別では，若干の大学において，学生集団の修得目標自体が異なっている。

第四に，主要な修得目標の達成度は，私立大生と国公立大生によって異なっており，私立大生の方が，概して，それは高い。

第五に，10大学を通じて，学年別・性別・及び学業成績別によって，修得目標の達成度が異なる学生集団が，同一大学内に見いだせる。

（松　永）

おわりに

(1)　Ⅱ・Ⅲの要約に述べたとおり，大学大衆化の波は学生の目標意識や資質・能力の修得状況に及び，かっての伝統的なそれとはかなり異なる形態を示している。

(2)　それにもかかわらず，学生の意識や実態の客観的な把握はあまり進んでいない。これを米国における旺盛な学生調査研究の発展並びに成果の豊かな蓄積[(2)]と比較するとき，わが国におけるこの領域の研究の貧困さには，大きな驚きと，今後の高等教育のあり方への深い危惧の念とを禁じえない。

(3)　われわれのささやかな調査研究が刺激となって，今後この領域の研究が発展の方向に向うならば，まことに幸である。また，われわれも，今後学生の期待する目標やニーズに対する大学側の対応や問題点の調査を事例研究として進め，今回の調査で判明した教育や学習の成功と失敗について原因の解明に努める予定である。

(4)　大衆化時代を迎えた高等教育が，質的に意義あるものとなるには，高等教育機関のそれぞれが，さまざまな色と香りと味わいを帯びた独自の個性を確立することにあると，ひそかに考えているが，ともあれ，学園生活のあり方を探るためには，事例研究によりキメ細かな実態把握，因果関係の解明，さらに最適化への施策の探索が必須であると思われる。

（中　島）

(1) Howard R. Bowen, 1977, Investment In Learning (Jossey-Bass. Pub.)

(2) 例えば,Cooperative Institutinal Research Program は, 1996年以降1978年までに約20万人の学生と300校以上の中等後教育機関という全米的サンプルを対象として十数年にわたり追跡調査を継続してきた。Alexander W. Astin, 1978, Four Critical years (Jossey-Bass Pub.)

また, 次の書は, 以上の学生調査・研究を検討し, それらの成果を要約している。Kenneth A. Feldman & Theodore M. Newcomb, 1969, The Impact of College on Students, 2 Vols. (Jossey-Bass Pub.)

次の書には, 学生の活動・態度その他の実態, 高等教育の改革, 少数民族出身の学生などに関する研究の概観と膨大な文献リストが収められている。Philip G. Altback & David H.Kelly, 1973, American Students : A Selected Bibliography on Student Activism and Related Topics (Lexington Books)